

2019年度 交換留学 留学報告書

コミュニケーション学科 3年

留学先：韓国 徳成女子大学

留学期間：2019年3月～2019年6月

学んだことは、やはり行かないと何も分からないし変わらないという事でした。正直インテンシブコースの中でも特別韓国語がうまかったわけでもなく、授業で学んだレベル以上のことはほとんど分かりませんでした。学校の人や先輩方がおっしゃった、悩むなら行くべきだ。という言葉に気持ちを託していた部分がありました。しかし、行ってみるとそういう風に行った方たちは、口だけで留学先で出会う悩みには自分で処理するしかありませんでした。行くか行かないか悩むことを放棄した自分には、とてもいい経験になったと思います。大きなアクシデントやハプニングははっきり言ってなかったと思いますが、毎日韓国語に囲まれた生活をする中で、四六時中韓国語のことを考えられました。

ちょうど韓国にいる間にイチロー選手の引退報道がありました。その時に「外国人を体験する」という話を聞き、自分が今体験しているのはそういうことなんだと、言語化されたことによりしっかりきた記憶があります。周りの人がみんな外国人でしたが、冷静になると私が外国人なのかと気づきました。語学堂でもベトナム人の子と韓国語で会話するのは新鮮で不思議な感覚でした。韓国語ができなかったときは、外国人は言葉が通じないのでどこか線をひいていましたが、結局はみんな根は同じで喜怒哀楽のある人間なんだと当たり前のことにちゃんと理解することができました。

また、日本語をしゃべるときは、自分が使いたい単語や雰囲気を選べますが、勉強中の韓国語は知っているものしか使えず選ぶほどのレパートリーのなさにもどかしさを感じました。韓国語を学びながら日本語について深く考えるようになりました。使い慣れていない言語だと、たわいのない会話がとても難しくこの言語を自由に扱えたらもっと仲良くなれたらと思うことがありました。

毎日語学堂もあり忙しかったですが、留学中は韓国語に集中していたため日本で生活しているより気持ち的に余裕がありました。その中で自分の将来のことを考えたりと、今までで一番自分と向き合うことができた4か月だったと思います。留学が終わりしばらくたち、韓国語を使う機会がないためやはりどこかで機会を作らなければならないなと考えています。日本に帰ってからは忙しく流れるように月日が過ぎてしまいます。毎日自分は何ができたのか、何ができなかったのかを意識していた期間はきっと留学に行ったから得られたものだと思います。するか、しないかの選択においていかに「する」ことが大事なのか学ぶことができた留學生活でした。